

初版作成日 2016 年 1 月 5 日

第 3 版 2022 年 4 月 27 日

第 3.01 版 2026 年 7 月 17 日

安全データシート

1. 化学物質等および会社情報

化学品の名称	セリ・カット リキッド
製品コード	SCH-02
会社名	カトウ工機株式会社
住所	神奈川県平塚市新町 2-65
電話番号	0463-36-1511
緊急時の電話番号	0463-36-1511
FAX 番号	0463-36-1121
メールアドレス	kato_sds@kato-koki.com
推奨用途及び使用上の制限	タッピング作業用オイル

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体	区分外
自然発火性液体	区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
----------	-----

環境有害性

該当なし

上記で記載がない危険有害性は分類対象外か分類できない。

シンボル	無し
注意喚起語	無し
危険有害性情報	無し

3. 組成および成分情報

純物質もしくは混合物の区分 混合物

化学名または一般名 動物性油、石油系炭化水素混合物

化学名	重量 パーセント	化審法官報 公示番号	安衛法官報 公示番号	CAS 番号
オレイン酸メチル	34～40%	(2)-3004 等	非該当	68991-70-8
トリアシルグリセロール	21～22%	(7)-672	非該当	61789-97-7
動物油脂とオレフィンの 硫化物	20～22%	既存化学物質等	非該当	68153-70-8
鉱油	5～7%	(9)-1700 等	既存化学物質	8042-47-5 等
ポリエチレングリコール ジステアレート	3～5%	(7)-1101	非該当	9005-08-7
その他	6～9%	非開示	非開示	非開示

その他添加物を含む。

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移す。身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、必要なら医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服・靴などを速やかに脱ぎ、水と石鹸で付着した部分を洗い流す。

目に入った場合

清潔な流水で最低 15 分間目を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗浄する。

最も重要な兆候及び症状

目や皮膚に接触した場合、軽度の刺激を引き起こす可能性がある。

応急措置をする者の保護

救護者は、状況に応じて適切な保護具（保護手袋や保護眼鏡など）を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

泡消火剤、炭酸ガス、粉末消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

- ・火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生する恐れがある。
- ・接触により皮膚や眼に炎症をおこす恐れがある。
- ・加熱により容器が爆発する恐れがある。

特定の消火方法

- ・火元（燃焼源）を断ち、適切な消火剤を用いて風上から消火する。
- ・初期火災の際には、粉末消火剤、二酸化炭素消火器を用いる。
- ・大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効。

消火を行う者の保護	・注水は火災を拡大して危険な場合がある。 ・消火作業は必ず保護具を着用する。 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項 保護具および緊急措置	・作業者は適切な保護具（『8. 暴露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 ・適切な防護衣を着けていないときは破損した容器、あるいは漏洩物に触れてはいけない。 ・風上に留まる。低地から離れる。 ・直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離して、関係者以外の立ち入りを禁止する。 ・密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項 回収・中和	・漏出した製品が河川・下水道等に排出されないように注意する。 ・大量の場合、土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いたあと、できるだけ空容器に回収する。 ・少量の場合、土・砂・おがくず・ウエス等で吸着させて空容器に回収し、その後ウエス等で完全に拭き取る。
封じ込め及び浄化方法・機材	・危険でなければ漏れを止める。 ・大量の場合：土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いたあと、できるだけ空容器に回収する。 ・少量の場合：土、砂、おがくず、ウエス（布）等に吸着させて空容器に回収し、その後完全に拭き取る。 ・漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止策	・すべての発火源（近傍での喫煙、火花や火炎）を速やかに取り除き、消火用器材を準備する。 ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 ・床に濡れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。また、漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気・全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	・目に入ると炎症を起こすことがある。取り扱う際は保護メガネをするなど、目に入らないようにする。 ・皮膚に触れると炎症を起こすことがあるため、取り扱う際は保護手袋を使用する等、皮膚に触れないようにする。 ・飲まないこと。誤って飲み込むと下痢・嘔吐することがある。 ・容器から取り出す時は、ポンプ等を使用し、細管を用いて口で吸い上げてはならない ・作業場所の換気を十分に行い、取り扱いの都度、容器を必ず密栓する。 ・子供の手の届かないところに置くこと。 ・周囲での火気、スパーク、高温体との接触を避ける。静電気対策を行い、作業着・靴等も導電性のものを使用する。
	接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	技術対策	・保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない構造とする。 ・保管場所の床は、床面に水が浸入・浸透しない構造とする。 ・保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ適切なためますを設ける。 ・保管場所には、危険物を貯蔵又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
	保管条件	・ゴミ、水などの混入防止のため使用後は密栓する。 ・直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて換気のよい暗所に保管する。 ・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。 ・指定数量以上の量を取り扱う場合には、消防法で定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
	混触危険物質	「10. 安定性及び反応性」を参照。
	容器包装材料	分類できない。

8. 暴露防止及び人に対する保護措置

管理濃度	規定なし	
許容濃度	(暴露限界値、生物学的暴露指標)	設定されていない
設備対策	・ミスト又は蒸気が発生する場合は、発生源の密閉化又は排気装置を設ける。 ・取扱う場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。	
保護具	呼吸器の保護具	必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
	手の保護具	長期間又は繰り返し接触する場合には耐油性(ニトリルゴム製保護手袋、フッ素ゴム製保護手袋等)のものを着用する。
	眼の保護具	飛沫が飛ぶ場合にはゴーグル型眼鏡を着用する。
	皮膚及び体の保護具	長時間にわたり取り扱う場合、または濡れる場合には耐油性の長袖作業服を着用する。濡れた衣類は完全に清浄にしてから再使用する。
衛生対策	取扱い後は良く手を洗うこと。	

9. 物理的及び化学的性質

1. 物理的状态	液体
2. 色	黄褐色
3. 臭い	臭気あり
4. 融点・凝固点	データなし
5. 沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
6. 可燃性	データなし
7. 爆発下限及び爆発上限／可燃限界	データなし
8. 引火点	184℃以上
9. 自然発火温度	データなし
10. 分解温度	データなし
11. pH	データなし
12. 動粘度	2.0 dPa・s(40℃) 6.5 dPa・s(15℃)
13. 溶解度	水に不溶
14. n-オクタノール／水分配係数	データなし
15. 蒸気圧	データなし
16. 密度	0.92 g/cm ³ (15℃)
17. 相対蒸気密度	データなし
18. 粒子特性	本品は液体の記述なので「該当なし」

10. 安定性及び反応性

反応性	アルカリ物質と混合して加熱すると分解して石鹼を生じる。
化学的安定性	通常条件では安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤と接触すると反応する可能性がある。
避けるべき条件	直射日光、加熱、火源、アルカリ、酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、硫化水素、硫黄酸化物の生成の可能性。
可燃性	あり
発火性(自然発火性、水との反応性)	データなし
酸化性	データなし
自己反応性・爆発性	データなし
粉じん爆発性	データなし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	区分外
	経皮	分類できない
		主成分オレイン酸メチルにおいて、LD50（ラット）＝5,000 mg/kg 以上であることから、当該品も同等とした。
	吸入(ガス)	定義上対象外
	吸入(蒸気)	分類できない
	吸入(粉じん)	分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性	吸入(ミスト)	分類できない
		分類できない
		長期間または繰り返し接触する場合は刺激の恐れあり。
		分類できない「刺激の恐れあり。」
眼に対する重篤な損傷・刺激性		分類できない「刺激の恐れあり。」
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性		分類できない
発がん原性	鉍物油	区分外
		【根拠】配合成分の鉍物油について、IARC（国際がん研究機関）でグループ 3（ヒトに対する発がん性について分類できない）に評価されているため。
生殖毒性		分類できない
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）		分類できない
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）		分類できない
誤えん有害性		分類できない
その他		有用なデータなし

12. 環境影響情報

移動性	物理化学的性質からみて、大気・水系・土壤環境に移動しうる。
残留性/分解性	分類できない（有用な情報なし）
生体毒性	主成分オレイン酸メチルにおいて魚 LC0 100 mg/L 以上
土壤中の移動性	製品の物理化学的性質（水に不溶の液体、密度 0.92g/cm ³ ）からみて、大気・水系・土壤環境へ移動・拡散しうる。
オゾン層への有害性	分類できない（モントリオール議定書の規制物質は配合されていないため、実質的には「区分外」相当）

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	・廃棄においては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）並びに関係する地方自治体の条例規則に従って適正に処理すること。 ・産業廃棄物として自ら処理するか、又は都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 ・埋立処分を行う場合は、予め焼却施設等を用いて適正に焼却し、その燃えがら（焼却灰）について環境省令で定められた判定基準以下であることを確認しなければならない。 ・焼却処分をする場合は、安全な設備・場所で行い、かつ燃焼又は爆発によって周囲に危害や損害を及ぼす恐れのない方法で行うこと。また、焼却中は必ず監視人を配置すること。 ・下水や河川、海洋、土壤等への不法投棄は絶対に行わないこと（投棄禁止）。
汚染容器及び包装	・容器は中身を完全に使い切って（空にして）から廃棄すること。 ・空容器を廃棄、あるいは再利用のために回収する場合は、付着物や残留する蒸気などの危険有害性を完全に除去した上で、関連法規及び地方自治体の基準に従って適正に処理すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報		該当しない
	航空規制情報		該当しない
	UN No.		該当しない
国内規制	陸上規制情報	消防法	消防法、労働安全衛生法の規定に従う。
	海上規制情報	船舶安全法	該当しない
	航空規制情報	航空法	該当しない
	輸出情報	貿易管理令	該当しない

注意事項	火気厳禁
特別安全対策	重量物を上積みしない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

安衛法・化審法	既存化学物質名簿への収載、通知対象物
消防法	危険物 第4類 第3石油類（非水溶性液体）
労働安全衛生法（名称等を通知すべき有害物）	・名称等を表示すべき有害物（法第57条、施行令第18条）：非該当（カットオフ値未満） ・名称等を通知すべき有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）：該当（鉱油：5～7%
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制（拡散、流出の禁止）
水質汚濁防止法	油分排出規制（ノルマルヘキサン抽出分として検出される）
海洋汚染防止法	油分排出規制（原則禁止）
下水道法	鉱油排出規制（許容濃度 5 mg/L）
毒物劇物取締法	非該当
PRTR法	非該当

16. その他の情報

引用文献等

- 1) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂5版
- 2) JIS Z 7252:2019 / JIS Z 7253:2019
- 3) 独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）GHS 分類結果データベース
- 4) 原材料メーカー発行の安全データシート（SDS）

お願い

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。

記載内容は、現時点で入手できる資料・情報・データに基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全を保証するものではありません。

また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上での取り扱いが必要です。

全ての化学品については、未知の有害性があり得ます。取り扱いには細心の注意が必要です。

本品の適正なる使用については、使用者各位の責任において行って下さい。